

第33回

西アジア 発掘調査報告会

—令和7年度 考古学が語る古代オリエント—

主催:日本西アジア考古学会、東京文化財研究所

後援:一般社団法人日本考古学協会、公益財団法人古代オリエント博物館、

国士館大学21世紀アジア学部附属イラク古代文化研究所、早稲田大学エジプト学研究所

2026 3/21(土) ▶ 3/22(日)

参加方法

① 会場対面 (東京、東京文化財研究所)

参加費無料 (非会員のみ当日に資料代1000円)、申込不要

② オンライン視聴 (Zoomウェビナーによるライブ配信)

事前申込制 (申込み方法は下記をご覧ください)

事前申込み方法

定員 500名 ※オンライン視聴のみ

締切 3月22日あるいは満席になり次第

● イベント管理サービスPeatixで受け付けます。

<https://jswaa33.peatix.com>



【お問い合わせ先】日本西アジア考古学会事務局 office@jswaa.org

写真の遺跡 (左上から右下へ): シンキ (エジプト)、アク・ベシム (キルギス)、
アリ古墳群西 (バハレーン)、タグラル (アゼルバイジャン)

日本の発掘調査隊が
西アジアやその周辺地域で
遺跡調査を行う最新状況を
お伝えする一般講演会です。
今年度は東京文化財研究所と共に開催で、
上野の同研究所での開催となります。
対面とオンライン併用の開催です。
今年多くの海外調査が実施され、
最新の調査成果が発表されます。
口頭・ポスター発表含め
総計27本になります。



会場 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
東京都台東区上野公園 13-43

※発表者が複数の場合も代表者1名のみが記載されています。また、当日発表する方とは一致しない場合があります。

発表順などは変更されることがあります。最新情報はウェブページでご確認ください。

<http://jswaa.org> 日本西アジア考古学会 検索

Day 1 2026年3月21日(土)	
10:00-10:30	開場・受付
10:30-10:40	開会の辞
アナトリア、コーカサスの調査	
10:40-11:05	報告① 南コーカサス地方のネアンデルタール人 —アゼルバイジャン第16次発掘調査(2025年)— ■東京大学総合研究博物館長・教授 西秋 良宏
11:05-11:30	報告② 石灰岩の丘に暮らした狩猟採集民 —トルコ、チャクマックテベ遺跡第5次調査(2025年)— ■筑波大学人文社会系教授 三宅 裕
11:30-11:55	報告③ 南東アナトリア先土器新石器時代の丘上遺跡 —ハルベトスワン・テベシ遺跡の第4次調査(2025年)— ■千葉工業大学地球学研究センター研究員 下釜 和也
11:55-13:25	昼食休憩(90分)
13:25-13:50	報告④ 中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて —キユルテベ遺跡中央トレンチ発掘調査(2025年)— ■ノートルダム清心女子大学教授 細谷 亮一
メソポタミア、レヴァントの調査	
13:50-14:15	報告⑤ 新石器化と都市化のはざま —イラク・クルディスタン、シャイフ・マリフ遺跡 第2次発掘調査(2025年)— ■金沢大学国際基幹教育院准教授 小高 敬寛
14:15-14:40	報告⑥ 南メソポタミア最北部のシュメール初期王朝及び アッカド王朝時代の古代都市遺跡 —イラク、テル・シンカー遺跡の地表面調査(2024~2025年度)— ■長崎国際大学人間社会学部准教授 川上 直彦
14:40-14:50	休憩(10分)
14:50-15:15	報告⑦ 後期青銅器時代の都市国家を探る —イスラエル、テル・レヘシュ第14次発掘調査(2025年)— ■立教大学文学部教授 長谷川 修一
15:15-15:40	報告⑧ ローマ・ビザンツ時代の埋葬の変遷を探る —ラマッラー～ナブルス間(パレスチナ自治区)における 分布調査(2025年)— ■中部大学中部高等学術研究所日本学術振興会特別研究員(PD) 長尾 琢磨
アラビア半島の調査	
15:40-16:05	報告⑨ ディルムンの王墓を掘る —バハレーン、アラビア半島群西プロジェクト2025— ■東京文化財研究所文化遺産国際協力センター保存計画研究室長 安倍 雅史
16:05-16:15	休憩(10分)
16:15-16:40	報告⑩ バハレーン・ティロス期のマカバ第1号墳の葬送に関わる行為 —マカバ第1号墳の調査2025— ■奈良県立橿原考古学研究所技術アドバイザー 西藤 清秀
16:40-17:05	報告⑪ 砂漠の入り口に位置する先史時代墓地 —オマーン、アッ=スバイヒ遺跡における 緊急発掘調査(2025年)— ■東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教 黒沼 太一
17:05	1日目終了

1日目終了後の懇親会に参加希望の場合は、こちらのQRコードより
お申し込みください。



Day 2 2026年3月22日(日)	
10:00-10:30	開場・受付
アラビア半島の調査	
10:30-10:55	報告⑫ 南東アラビアのオアシスにおける考古学的景観 —オマーン、アルニハジャル遺跡およびユネスコ世界遺産 パート遺跡群・アルニain遺跡における踏査(2025年春季)— ■東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教 黒沼 太一
10:55-11:20	報告⑬ 南東アラビア山麓峡谷における山岳牧民の起源を探る —オマーン、タヌーフ地区における考古学調査(2024~2025年)— ■慶應義塾大学文学部准教授 三木 健裕
11:20-11:45	報告⑭ イスラーム時代のヒトとモノの移動を探る —サウジアラビア・紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2025)— ■早稲田大学・東日本国際大学客員教授 長谷川 奏
11:45-13:15	昼食休憩(90分)
エジプト、エチオピアの調査	
13:15-13:40	報告⑮ ギザ台地の墓地形成史を探る —エジプト・ギザ西部墓地発掘調査(2025年度)— ■早稲田大学考古資料館学芸員 馬場 匠浩
13:40-14:05	報告⑯ アビドス南における地方ピラミッドとその周辺構造の発掘調査 —エジプト・シンキ考古学プロジェクト2024-2025— ■名古屋大学教授 河江 肖剣
14:05-14:30	報告⑰ 紀元前2千年紀エジプトの葬制の変遷を探る —ダハシール北遺跡第30次調査(2024~2025)— ■東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授 矢澤 健
14:30-14:40	休憩(10分)
14:40-15:05	報告⑱ ヘレニズム村落の構造を探る —エジプト・イドウク湖沿岸コーム・アルニバーウ遺跡の考古学調査(2025)— ■早稲田大学・東日本国際大学客員教授 長谷川 奏
15:05-15:30	報告⑲ エチオピア南東部の中世イスラーム遺跡群 —オロミア州西ハラルゲ県・東バレ県の遺跡踏査報告(2025年)— ■東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ジュニア・フェロー 遠藤 仁
中央アジアの調査	
15:30-15:55	報告⑳ 天山山脈北麓に古代遊牧活動を探る —キルギス共和国シャムシー渓谷の考古学調査(2025年)— ■奈良文化財研究所主任研究員 山藤 正敏
15:55-16:05	休憩(10分)
16:05-16:30	報告㉑ シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷 —キルギス共和国アク・ベシム遺跡の調査(2025)— ■帝京大学文化財研究所准教授 櫛原 功一
16:30-16:55	報告㉒ 原シルクロードの形成 —ウズベキスタン・ダルヴェルジン遺跡(第6次)の発掘調査(2025年)— ■金沢大学客員研究員 久米 正吾
16:55-17:20	報告㉓ ソグディアナの都市を探る —ウズベキスタン共和国クルドル・テバ遺跡発掘調査(2025年度)— ■東北芸術工科大学准教授 村上 智見
17:20	閉会の辞
17:25	閉会

ポスター展示 (会場対面のみ、 オンラインでは ご覧いただけません)	ポスター①	ホルムズ海峡に面した南東アラビア北端部の歴史を紐解く—オマーン、ムサンダム北部地区における考古学調査(2025年)— ■総合地球環境学研究所教授 近藤 康久
	ポスター②	エジプト、サッカラ・ネクロポリスの展開を探る—エジプト、第9次北サッカラ遺跡調査(2025)— ■筑波大学人文社会系教授 河合 望
	ポスター③	レヴァント回廊の歴史を探る—フェニキアの港バトルーン遺跡、レバノン:第11次調査(2025年)— ■中部大学人間力創成教育院教授 西山 伸一
	ポスター④	アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト:第9次調査(2025年)— ■中部大学人間力創成教育院教授 西山 伸一